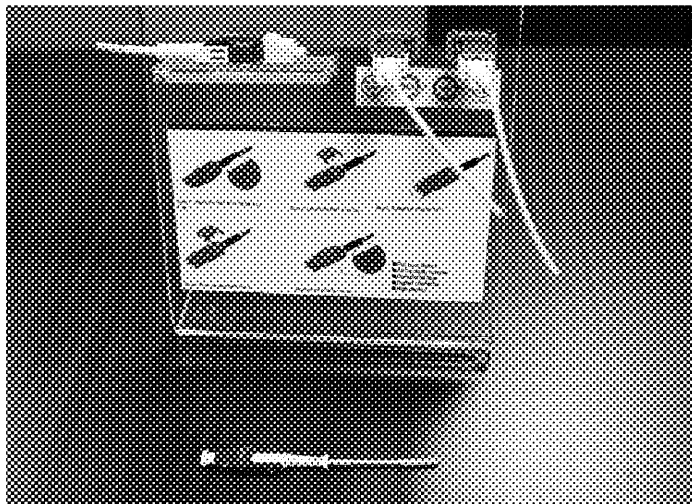


サンコール、DC向け増産

光通信用 コネクタ― 中国工場に新設備

【京都】サンコールは通信関連製品の光通信用コネクタ―などの生産能力を増強する。通信関連製品はデータセンター（DC）向けに引き合いが増えており、同製品を製造する中国子会社に樹脂成形機や組み立て用の自動機を新たに導入する。今回の増強も含めて、通信関連は2026年度に約15億円の投資を計画する。生産能力を増やして、26年度の通信関連の売上高で前年度比約52%増の106億円を目指す。



中国子会社の Sun call Technologies (S Z) (サンコールテクノロジーズ〈深圳〉)の近隣に工場を賃借し、成形機や自社開発の組み立て用の自動機を導入する。8月ごろに稼働する計画。

奈良正社長は「今回の投資を超える案件も来ている」として、夏以降の投資も今後検討する。データセンター向けに引き合いが増えている。光通信用コネクタ―製品の一部

する。

中国のサンコールテクノロジーズは25年度にも同様の設備投資を行った。通信関連では、26年2月に高密度な次世代光通信コネクタ―を製造・供給するためのライセンスを取得しており、27年度以降に売り上げに貢献する計画。

サンコールはここ数年、米国や中国などのほか、欧州、南米、日本でDC向け光通信コネクタ―などが好調に推移している。

同社の光通信用コネクタ―は作業者が組み立てやすい構造になっていることや、部品の中にシャッターを取り付けることでホコリが入りにくいなどの特徴がある。